

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400900		
法人名	有限会社アップウェル		
事業所名	グループホームたくひの里(1ユニット)		
所在地	島根県出雲市大津町3645		
自己評価作成日	平成24年2月14日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=32
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成24年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

我電創水を食器洗いや洗濯・掃除等に利用しており、消毒や除菌に徹底して取り組んでいる。
毎週金曜日にボランティアグループの方が来られ、世間話をしたり踊りや大正琴・ハーモニカ演奏、手品やゲーム等をして交流している。(現在5グループ20名の方がおられる)
毎月ケーキ職人の方が来られ、季節の果物を使って誕生日ケーキやバレンタイン、クリスマスケーキを作って下さっており、皆で誕生者を祝ったり、季節感を感じていただいている。
地域行事に参加したり、保育園児や小学生・地域の方々との交流を続けることで、利用者の皆様の生きがいの一つとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共有スペースでは、利用者がそれぞれ少人数で、自分たちがやりたいことや望むことを無理なく行っており、自由で穏やかな時間が感じられ、とてもくつろげる空間であった。全員が評価の意義は理解しており、全職員で自己評価を行い、より利用者本位の質の高いサービス提供を目指している。
地域のお祭りへの参加や、様々なボランティアの来訪による交流が多くあり、特に地域の子ども会、近隣の保育園との交流も盛んであり利用者にも喜ばれている。より地域に密着したホーム作りに向けて積極的な取り組みがなされており、地域との交流の多さ、深さは評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰が見てもわかりやすいホーム独自の理念を掲げている。地域との交流を大切に、笑顔で生き生きと過ごしていただけるよう努めている。	地域密着に視点を置いて、地域との深い関わりを目指すといったホーム独自の理念が定められており、全職員で理念の具現化に向け地域との交流も積極的に行なわれており、地域との交流も多い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事やサロン事業、祭り等に参加したり、地元の記念館へ行き交流している。地元のボランティアグループ、小学生、保育園との交流も継続して行っている。	地域の老人会が主催するお茶会や行事に参加する利用者もあり、近くの神社の祭りに参加するなど、地域の方々と交流しており、日常的な交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りの案内も兼ねて地域へ向け会報を発行している。今後、発行回数を増やしていくようにしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議で、報告や話し合いを行っている。利用者を含む参加者の方々から助言をいただいたり、意見交換をしサービスの質向上に活かしている。	2ヶ月に1回定期的に開催しており、会議では報告、意見交換を行い、出された意見、要望等をもとに改善に繋げ、をホームの質の向上を目指す機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を活用したり、必要時には連絡や相談をしながら取り組んでいる。	管理者は生活保護者、知的障害者の利用があることから、市の担当部署に自ら足を運び、情報提供と報告を行うなど、蜜に連携を取ることでよりホームの質の向上を目指し取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり勉強会を持ち、日々確認しながら拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルも整備されており、研修会も開催され、身体拘束をしないケア提供への意識は高く、職員全員で拘束のないケア提供に努めており、身体拘束は一切なされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々、言葉使いや対応には十分気をつけるようにしている。また研修に参加したり勉強会を持ち、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性に応じて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分な説明を行い、理解していただけるよう努めている。不安や疑問点等にも都度対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中での会話や、運営推進会議への参加、来所時に話をする機会を設け、必要なことは記入し反映させるよう努めている。毎月の便りにも様子を記入するようにしている。	家族の面会時には無理なく意見や要望を言える声掛けがなされ、また毎月、利用者の状況などを記した便りが送付されるなどの工夫も見られ、家族からの、意見や要望があればケアに生かす体制も作られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の開催や、個々の意見を聞く機会を設けるようにしている。意見を出しやすいように、改善提案書も作成している。	日々の申し送りや、定期的な会議の場で個々の意見を聞く機会を設けるようにしており、意見を出しやすいように、改善提案書も作成、導入するなどきちんとした仕組みが構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況を把握し、環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりが適した研修を受けられるように計画を立てて取り組んでいる。 今後は、事業所内での勉強会をより充実したものにし、スキルアップに努めたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や研修等を活用し、他事業所との交流を行っている。 職員が順に会や研修に参加できるように、計画し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を十分にお聞きし、また安心されるよう言葉かけに配慮し、早期に良い関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を十分にお聞きし、何でも相談等していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し、何が必要か・何をすべきかを見極め、適切な対応ができるよう支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに協力し助け合いながら生活できるよう、関係作りに努めている。作業等も一緒に行うようにしている。 時には助言をいただくこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にし、来所時にはホームでの様子を伝え、できることを話し合い支援している。 また定期的な面会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理・美容院を利用したり、知人の方々との関係も継続できるよう支援している。 ホームへ来られた際には、ゆっくり気持ちよく過ごしてもらえよう配慮している。	入居前に詳細なアセスメントが行われており、馴染みの人や場の情報は把握し、その情報を基に利用者の意向を捉えながら関係継続の支援が細かく行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、テーブルや席の配置を工夫して関わりやすいようにしている。必要時には職員が間に入るようして適切な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行っている。 退居後も訪問して下さる家族の方もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や表情等から、本人の思いや意向を引き出せるよう努めている。困難な場合には、家族に希望等を聞いている。	本人の思いや意向に添うように努めており、常に利用者主体に主眼を置き、家族から意見を聞いたり、日々の生活から希望や意向を把握するよう努め、職員の一方的判断とならないよう注意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人の方や前の担当の方から話を聞き、把握に努めている。生活していく中で新たに知ったことも、記録へ記入するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや記録記入、モニタリングやアセスメントを行い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望等を聞きながら、状況に合わせたケアができるようケアプランを作成している。 また毎月のモニタリングや会議等で振り返り、ケアプランの作成・見直しをしている。	本人や必要に応じて家族や関係者とも意見交換・検討を行い、“望む生活”“あるべき人生”を実現するための課題を全職員で抽出し、協議・検討がなされ介護計画が策定されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの状況を記録へ記入し、情報共有や見直しに活かしている。また必要なことは会議で取り上げ話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・ニーズに合わせてできる限りの対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週金曜日のボランティアグループの方々との交流、神社の祭りや漫画コンクールへの参加を継続することで、日々の楽しみや活躍の場をもてるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を継続される方もおられる。本人や家族、医師と相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用前からの掛かりつけ医での医療が受けられるよう、家族等と共に協力し通院支援を行い、訪問診療対応の医療機関を紹介したりしながら、本人や家族が納得できる受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度より看護師が常勤となり、かかりつけの医師や看護師・職場内での情報交換や相談がしやすくなり、より適切な支援ができるようになっていく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期に退院ができるよう、また本人も安心できるように、病院関係者や家族と情報交換や相談しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人や家族、医療関係者と話し合いをし、事業所でできることを説明した上で対応を検討し決めている。職員間でもできること、できないことを話し合い、ケアに取り組んでいる。	利用者全員に重度化や終末期に対する意向を聞き、把握がなされ、本人や家族がかかりつけ医との協議の上、連携を図りながら対応していく方針が共有され支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強や訓練ができるよう計画し、全員が実践力を身につけることができるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災時の避難訓練は行っている。今年度は地震後の火災想定で訓練を1回行ったが、回数を重ね避難方法を身につけておく必要がある。	地元の消防署の協力を得て、自衛消防訓練を行っている。また運営推進会議の委員の方にも声掛けをし訓練の参加をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさや話すスピード、言葉づかいに気を配り対応している。 日々のケアや会議の中でも、職員間で振り返りや確認し合えるよう努めている。	衣服の乱れや汚れがあればそっとカバーするような対応がなされ、排泄介助の際もプライバシーが守られ、本人の「現実」を否定しないよう、全職員が意識統一を図って適切な声掛けがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを表わしやすいよう声かけに配慮し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや体調、習慣や希望にあわせ、日々気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃より整髪や服装等に気を配り、声かけや支援を行っている。行事等ある時は事前に声かけし、一緒に服を選んだりご自分で化粧をして出られる方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく楽しく食事ができるよう、バイキングや食事会を取り入れている。献立書きやおしぼりたたみをしてもらったり、下膳をされる方もある。	バイキングや食事会を取り入れ、変化を持たせた支援がなされている。職員も一緒に食事をし、お話をしながらさりげなく食事を介助する姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて量の調整をしたり、バランス良く食べてもらえるよう好き嫌いの把握や、食べやすい固さや大きさになるよう工夫している。水分も不足しないようこまめにすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力や状態に応じて、声かけや支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや状態を把握し、その方に合わせてトイレの声かけや案内の支援を行っている。	排泄チェック表などから利用者一人ひとりの排泄のパターンを職員が把握、適時に誘導することによりトイレで排泄できるように支援している。また利用者の身体機能等に応じたケア提供がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし、お茶やヤクルト・ヨーグルト等をすすめたり、午前中は体操をして予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調・状態に合わせて気持ちよく入浴していただけるよう支援している。希望される方には、足浴も行っている。	入浴に関してはあくまでも本人等の希望に合わせた入浴ケアが提供されており、入浴を拒む利用者に対しては、言葉掛けに工夫するなど、一人ひとりに合わせた入浴支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の体調・天候等に応じて休息や安眠ができるよう支援している。室温調整や明かりの強さ等にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は一人ひとりファイルしており、変更時や注意点は都度申し送りし、状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなこと・得意なことを把握し、それを活かし張り合いや役割を持って過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調等の変化のため以前よりは外出回数減っているが、気候のよい春と秋には外出計画をし行きたい所へ出かけられるよう支援している。家族との外出や行きつけの理・美容院、建物周辺の散歩等、希望にそって支援できるよう努めている。	利用者の意向や希望を踏まえ、近所への散歩や買い物、理美容院の利用、加えて地域行事等への外出支援などが実施されており、外出の機会が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて、少額のごづかい管理を支援している。 施設側で管理をしている方には、買い物の金額を伝えたり等して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話がかけられるよう支援している。かかってきた時には、ゆっくり話ができるよう配慮している。 手紙のやり取りも継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は温度調整や換気・掃除をこまめに行い、気持ちよく過ごせるよう配慮している。また季節の花を生けたり、壁面飾り、菖蒲湯やゆず湯等も行いながら季節を感じていただけるよう工夫している。	古民家調の作りの共有空間は、様々な利用が可能であり、吹き抜けであり、圧迫感のない居心地の良い空間であり、とてもくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	団欒できる空間があったり、テーブル配置も工夫し各々に過ごしてもらえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら気持ちよく過ごせるように物を配置している。 各々に使い慣れた物や使いやすい物、好きな物を置いて過ごされている。	ホーム設置の家具が設置されているが、利用者の家から使い慣れたテーブルや椅子、テレビやベッド、カーテンなどの持ち込みがあり、家庭的な雰囲気のある利用者個々の心地よい環境作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	標示や手すり、シールやテープ等使用し、わかりやすく安全に過ごしていただけるよう工夫している。 居室や席がわかりやすいよう、表札や名札等を使用している。		